



名大トピックス

No.125 平成15年10月31日発行 名古屋大学総務部企画広報室 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Te(052)789-2016
ホームページ URL <http://www.nagoya-u.ac.jp>

名古屋大学男女共同参画社会推進シンポジウムが開催される



CONTENTS

- | | |
|--|---|
| ・平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム」
に採択される..... 2 | ・附属農場が農業館を利用して連続講演会（第4回）
を開催する..... 11 |
| ・名古屋大学男女共同参画社会推進シンポジウムが開催される... 4 | ・遺伝子実験施設が「Jr.サイエンス教室 遺伝子を見てみよう」
を開催する..... 12 |
| ・大学院留学生特別コース学位記授与式を挙げる..... 5 | ・総長等表敬訪問一覧（平成15年4月～9月）..... 12 |
|  ・動脈硬化性疾患の病態解明と創薬
貝淵 弘三..... 6 | ・東海・北陸地区国立学校等教室系技術職員合同研修
（電気・電子コース）が開催される..... 13 |
| ・株式会社半導体理工学研究センターへの感謝状贈呈式
が行われる..... 8 | ・平成15年度職員体育大会が開催される..... 14 |
| ・大学院生命農学研究科がシンポジウムを開催する..... 9 | ・新任部局長等の紹介..... 15 |
| ・博物館が第27回特別講演会と第9回コンサートを開催する... 10 | [INFORMATION] |
| ・環境学研究科学生が理事を務める NPO 法人が
防災功労者担当大臣表彰（団体の部）を受賞..... 11 | ・名古屋大学学内展覧会 strange x familiar
（ストレンジ×ファミリア）..... 16 |
| | ・本学関係の新聞記事掲載一覧（15年9月分）..... 17 |



平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム」 に採択される

平成15年9月18日、大学基準協会のもとに置かれた特色ある大学教育支援プログラム実施委員会から審査結果が公表され、本学が応募した工学部・工学研究科提案の「創成型工学教育支援プログラム」が採択されました。これは、研究に関して昨年度と今年度の21世紀COEで合計13件のテーマが採択された本学が、教育についてもわが国の先導的な役割りを果たしていることを目に見える形で社会に示したものであり、最高度の研究と最上質の教育の実施を学術憲章に掲げる本学にとって重要な意義をもつと考えます。

この件に関して、本年6月17日に本学の全学教育協議会のもとに学内選考のための専門委員会が置かれ、各部局等から20のプログラムが予備的に提案されました。その後、7月2日付けの基準協会からの公募要領に沿って改定された7つのプログラムの提案がありました。学内専門委員会は、基準協会の実績を重視するという選考方針に沿って医学部、工学部・工学研究科、高等教育研究センターからの3つのプログラムについて7月22日にヒアリングを行い、最終的に実績を最重要視して工学部・工学研究科からの提案1件に絞り応募したものです。その後、8月22日にヒアリング対象に残った旨の通知があり、8月25日に大学基準協会でのヒアリングが実施されました。

本プログラムの応募総数は628大学664件（国立大学は95大学95件）で、採択は80件（国立大学は24件）でした。また、本学が応募したテーマ（主として教育課程の工夫改善に関するテーマ）は総数243件、採択は29件で、かなり高いハードルを超えることができたと考えます。

今回採択された本学のプログラムは、「学生自らが課題を発見し、多様な視点からその本質を見極め、幅広い専門知識を統合して解を見出す能力を涵養する「創成教育」を、学部から大学院に亘るそれぞれの段階に応じたカリキュラムを立案し実施する」ことを内容とし、「社会が要請する主体的・創造的に問題・解決にあたる実践的な人材の育成に資するもので、他の大学の参考になる優れたモデルであると思われる」との実施委員会の高い総評を得ることができました。

この「特色ある大学教育支援プログラム」は今年を含めて5年間継続される予定であり、本学としては、現在実施されている他の優れたプログラムに実績を積み上げて毎年応募し、続けて社会の要請に応えていく必要があります。

（本記事は、中島 泉教育担当副総長に記述いただいたものです。）

1. 平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム」全申請・採択状況一覧表

		テーマ1 (主として総合的取組に関するテーマ)		テーマ2 (主として教育課程の工夫改善に関するテーマ)		テーマ3 (主として教育方法の工夫改善に関するテーマ)		テーマ4 (主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ)		テーマ5 (主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ)		その他のテーマ		合計	
		大学	短大	大学	短大	大学	短大	大学	短大	大学	短大	大学	短大	大学	短大
国立	申請件数	21	0	35	1	18	1	5	0	14	0	0	0	93	2
	採択件数	3	0	12	0	5	1	1	0	2	0	0	0	23	1
公立	申請件数	14	1	16	2	7	4	3	1	6	5	0	0	46	13
	採択件数	2	0	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	6	1
私立	申請件数	83	16	117	59	69	28	30	10	39	22	0	1	338	136
	採択件数	8	2	7	8	4	3	3	2	4	4	0	0	26	19
小計	申請件数	118	17	168	62	94	33	38	11	59	27	0	1	477	151
	採択件数	13	2	20	8	10	4	5	2	7	5	0	0	55	21
共同の取組	採 択 率	11.0%	11.8%	11.9%	12.9%	10.6%	12.1%	13.2%	18.2%	11.9%	18.5%	0.0%	0.0%	11.5%	13.9%
	申請件数	4		13		4		9		6		0		36	
合計	採択件数	1		1		0		2		0		0		4	
	申請件数	139		243		131		58		92		1		664	
合計	採択件数	16		29		14		9		12		0		80	
	採 択 率	11.5%		11.9%		10.7%		15.5%		13.0%		0.0%		12.0%	

注1 採択率 = (採択件数) / (申請件数)
 注2 私立大学には放送大学を含む

2. 平成15年度 特色ある大学教育支援プログラム取組の採択された大学・短期大学一覧表

大 学			短期大学			
設置	大 学 名	テーマ番号	設置	短期大学名	テーマ番号	
国 立	北海道大学	1	国立	筑波技術短期大学	3	
	東北大学	2	公立	岐阜市立女子短期大学	5	
	秋田大学	3	私 立	北星学園大学短期大学部	1	
	筑波大学	3		桜の聖母短期大学	5	
	東京大学	1		千葉経済大学短期大学部	5	
	東京外国語大学	2		青山学院女子短期大学	2	
	東京工業大学	2		産能短期大学	2	
	電気通信大学	2		日本赤十字武蔵野短期大学	3	
	長岡技術科学大学	2		湘北短期大学	2	
	福井大学	5		新潟工業短期大学	4	
	岐阜大学	3		新潟中央短期大学	2	
	名古屋大学	2		富山短期大学	1	
	豊橋技術科学大学	2		山梨学院短期大学	2	
	京都大学	3		松本大学松商短期大学部	5	
	奈良教育大学	2		龍谷大学短期大学部	2	
	和歌山大学	2		大阪女学院短期大学	2	
	鳥取大学	2	関西外国語大学短期大学部	3		
	徳島大学	3	安田女子短期大学	4		
	香川医科大学	2	香蘭女子短期大学	2		
	九州大学	1	佐賀短期大学	5		
	佐賀大学	5	宮崎女子短期大学	3		
	長崎大学	2				
	熊本大学	4				
	公 立	秋田県立大学	4	共同の取組		
		会津大学	1	大学・短期大学名		テーマ番号
		高崎経済大学	5	1 主として総合的取組に関するテーマ 2 主として教育課程の工夫改善に関するテーマ 3 主として教育方法の工夫改善に関するテーマ 4 主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ 5 主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
		金沢美術工芸大学	2			
広島市立大学		3				
大分県立看護科学大学		1				
千歳科学技術大学		3				
北海道医療大学		5				
自治医科大学		2				
神田外語大学		4				
北里大学	2					
慶應義塾大学	1					
私 立	工学院大学	1	芝浦工業大学、岡山理科大学、近畿大学、慶應義塾大学、拓殖大学、東海大学、東京工科大学、東京電機大学、東京理科大学、武蔵工業大学、明治大学、立命館大学、早稲田大学	1		
	国際基督教大学	1	新潟大学、長崎大学、富山大学	2		
	上智大学	1	文化女子大学、文化女子大学短期大学部	4		
	創価大学	4	山梨学院大学、山梨学院短期大学部	4		
	中央大学	2				
	東京慈恵会医科大学	3				
	東京女子大学	1				
	東京女子医科大学	3				
	東京農業大学	1				
	東京理科大学	2				
	武蔵工業大学	5				
	武蔵野大学	2				
	明治大学	3				
	明治学院大学	5				
	早稲田大学	2				
	金沢工業大学	1				
	愛知大学	1				
日本福祉大学	4					
京都造形芸術大学	5					
立命館アジア太平洋大学	2					



名古屋大学男女共同参画社会 推進シンポジウムが開催される

名古屋大学男女共同参画社会推進シンポジウムが9月29日（月）シンポジオンホールにおいて、「男女共同参画社会推進における産学官連携の意義と可能性」をテーマに開催されました。

シンポジウムでは、松尾総長による本学の男女共同参画推進の流れやシンポジウムの開催の主旨を交えたあいさつに続き、伊藤副総長から、男女共同参画推進専門委員会・男女共同参画室の紹介や本学の現在の取り組みについての説明がありました。

続いて、名取はにわ内閣府男女共同参画局長が「女性のチャレンジ支援について～地域におけるチャレンジネットワーク～」と題する基調講演を行い、内閣府が進めているチャレンジ支援の概要と今後の取り組みについて話されました。

その後、「各分野における現状と課題、産学官連携に期待すること」をテーマとしたパネルディスカッションが行われ、コーディネーターとして金井総長補佐、パネリストとして近藤 薫愛知県男女共同参画室長、横田啓子名古屋市男女平等参画推進室長、柴山忠範愛

知県経営者協会専務理事兼事務局長、橋本 新連合愛知調査・広報局長、田村哲樹法学研究科助教授が参加しました。各パネリストから各機関の男女共同参画に関する現状と取り組み及び男女共同参画のあり方等についての意見が発表され、続いて男女共同参画に関し産学官連携を進める意義について討論が行われました。

最後に、金井総長補佐から、男女共同参画を推進するための産学官連携フォーラム創設を検討する準備会を立ち上げることの提案があり、パネリスト全員一致で承認されました。

今回のシンポジウムは、学外からも参加できるオープン形式としたところ、近隣の大学、県内の自治体関係者及び企業の人事部等からの参加が70名を超え、男女共同参画についての社会的な関心の高さが伺われました。

このシンポジウムの内容については、今年度の男女共同参画に関する報告書に掲載し、今後の推進に役立つことにしています。



熱心に話を聞く参加者



説明する伊藤副総長



大学院留学生特別コース学位記授与式を挙げる

「大学院法学研究科、工学研究科及び環境学研究科留学生特別コース学位記授与式」が、9月25日（木）、豊田講堂第1会議室において総長、副総長、研究科長の列席のもと開催されました。

修了者のうち、大学院法学研究科の5名（うち1名欠席）及び大学院環境学研究科の5名にはそれぞれ修士の学位記が、大学院工学研究科の3名には博士の学位記が、松尾総長から一人一人に授与されました。

次いで、松尾総長から、本学での課程を修了されたことへのお祝いと、本学で学んだ知識や技術をさらに研鑽し、母国のみならず、世界の発展のため力を発揮されることを希望する旨のはなむけの言葉が贈られました。

これを受けて、修了生を代表して大学院工学研究科

の姜 美蘭（ジャン メイラン）さん（中国）が、日本での研究生生活、指導教官や学生との交流など留学中のエピソードを交えた謝辞を流暢な日本語で述べました。

閉会後には、松尾総長をはじめとする列席者、陪席の指導教官、留学生の家族や友人らを交えて記念撮影が行われる等、厳粛な中にも和やかな雰囲気となりました。

本学には、大学院における外国人留学生のための英語による特別コースとして、大学院法学研究科法律・政治学専攻博士課程（前期課程）、大学院環境学研究科地球環境科学専攻博士課程（前期課程）及び大学院工学研究科土木工学専攻博士課程（後期課程）が開設されています。



修了生総代の辞を述べる姜 美蘭さん



式に臨む修了生



動脈硬化性疾患の病態解明と創薬

貝 淵 弘 三

私はこの春から新設された医学系研究科の神経・腫瘍センターで神経情報薬理分野を担当しています。本年の2月からは、高等研究院の流動研究員として「動脈硬化性疾患の病態解明と創薬」というプロジェクトを展開しています。

平成13年度の医学統計を見ますと、1年間に亡くなった方の死亡原因の約4分の1は悪性新生物、いわゆる癌であることがわかります。一方、動脈硬化性疾患の脳卒中（脳血管疾患）と心筋梗塞（心疾患）を合わせると約4分の1になります。これらの動脈硬化性疾患は慢性疾患であり、その治療（内科的治療および外科的治療）にかかる医療費は膨大であり国家予算を圧迫しつつあります。しかしながら、動脈硬化性疾患の多くは抜本的な治療が確立されていない疾患群であります。

そもそも動脈硬化とは何なのでしょう。血管は人体における輸送路であり、鉄道網や道路網のようなものと考えていただければよいでしょう。この輸送網を介して、酸素や栄養素を含む血液が身体の隅々にまで運ばれます。血管が動脈硬化によって狭くなり閉塞すると、血液が運ばれなくなり組織が壊死を起こします。心臓の栄養血管である冠動脈が閉塞すると心筋梗塞が起こり、脳血管が閉塞すると脳梗塞が起こるわけです。動脈硬化は高血圧の大きな要因にもなっています。動脈硬化が進行すると血管がぼろぼろになってきて、破れやすくなります。脳血管がやぶれると、脳出血が起こりひどい場合は死に至ります。

何故動脈硬化が起こるのかはよく理解されていますが、老化現象と密接に関連していることがわかっています。18歳ぐらいになると動脈硬化が始まっていることもわかってきました。最近の研究から、動脈硬化

の初期病変は血管の内側を覆っている血管内皮細胞が、何らかの傷害を受けて起こると考えられています。その結果、血液細胞（主に白血球）が反応して血管内膜下に侵入して炎症を起こし、動脈硬化を起こすと考えられています。後期には、血管の収縮を司る血管平滑筋細胞が血管の内側に侵入して、増殖することによって、物理的に血管が細くなって詰まってしまうわけです。動脈硬化病変では血管収縮が起こりやすく、収縮が起こると、血管が完全に閉塞していなくても心筋梗塞や脳梗塞が起こると考えられています。

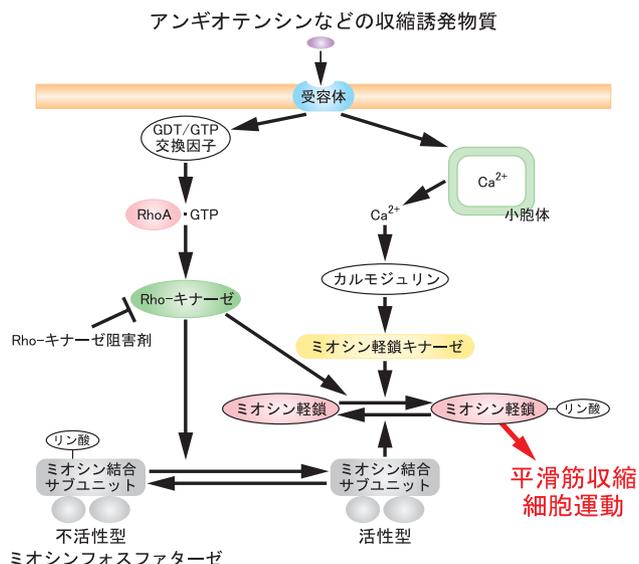


図1 Rho-Rho-キナーゼによるミオシンの活性制御機構
 アンギオテンシンなどの血管収縮誘発物質が作用すると、細胞内のカルシウム濃度が上昇して、カルモジュリンにカルシウムが結合します。その結果、ミオシン軽鎖キナーゼが活性化されます。ミオシン軽鎖キナーゼがミオシン軽鎖をリン酸化すると、ミオシンが活性化されます。一方、この際 Rho-キナーゼも活性化されてミオシンフォスファターゼがリン酸化されて不活性化されます。そのため、ミオシン軽鎖のリン酸化レベルが上昇します。血管平滑筋の攣縮や細胞運動にはこの Rho-Rho-キナーゼ経路が必要です。

平滑筋の収縮や細胞の運動がミオシンというモーター蛋白質によって推進されていることが知られています(図1)。私共の研究室では、低分子量 GTP 結合蛋白質 Rho がその標的蛋白質 Rho-キナーゼを介してミオシンの活性を調節することを明らかにしてきました。Rho-Rho-キナーゼ経路が、平滑筋の異常収縮を介して冠動脈攣縮や高血圧などの病態と、白血球や平滑筋細胞の遊走を介して動脈硬化形成に密接に関与していることも明らかにしてきました(図1)。最近、Rho-キナーゼの阻害剤を用いて、ブタ冠動脈の血管攣縮や動脈硬化を抑制することに成功しました(図2)。この一連の研究を進展させて、高等研究院では「動脈硬化性疾患の病態解明と創薬」の研究を推進したいと考えています。

一方、Rho ファミリーの Rac/Cdc42 の標的蛋白質として IQGAP1 を同定しており、IQGAP1 が細胞間接着や細胞極性を制御するメカニズムも明らかにしつつあります。最近、Rho-キナーゼの脳内基質タンパク質として CRMP-2 という蛋白質を同定して、CRMP-2 が神経細胞の軸索・樹状突起の運命決定を担っていることを発見し、神経細胞の極性や神経回路の形成機構に強

い興味を持っています。

ここで紹介したように、私共の研究の推進には多彩なスキルやバックグラウンドが求められます。実際、医学部、理学部、農学部、薬学部、工学部卒の大学院生や教官が学部や大学の枠を越えて参加しています。研究に少しでも興味のある人は是非気軽に研究室を訪ねてください。

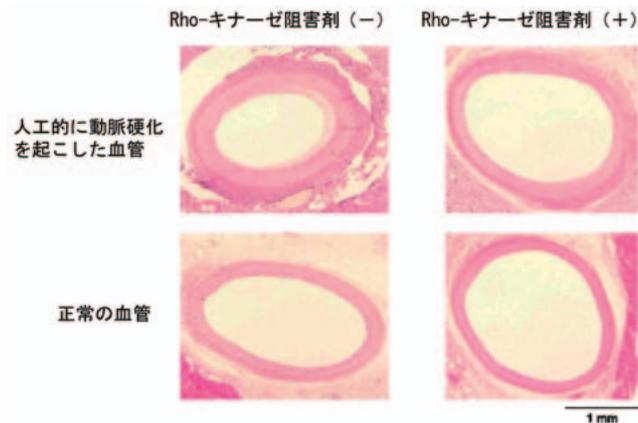


図2 Rho-キナーゼ阻害剤による動脈硬化形成阻害
ブタの心臓の冠動脈に局所的な炎症を誘発すると、動脈壁が肥厚して内腔が狭くなります(動脈硬化)。その内膜には白血球や平滑筋細胞が遊走しています。あらかじめ Rho-キナーゼ阻害剤を経口投与しておくと、このような肥厚は起こりません。肥厚が起こらない理由は、白血球や平滑筋細胞の遊走が阻害されているからだと考えています。

プロフィール

かいぶち こうぞう



1955年大阪生まれ。1980年神戸大学医学部卒。1985年米国DNAX分子細胞生物学研究所留学。1994年奈良先端科学技術大学院大学教授。2000年名古屋大学大学院医学系研究科教授。2003年より高等研究院を兼務。2000年よりISIの

Highly Cited Researcher に選出される。専門は分子生物学、神経生物学、薬理学。夢を持つ大学院生募集中。
<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/Yakuri/>



株式会社半導体理工学研究センターへの 感謝状贈呈式が行われる

株式会社半導体理工学研究センターへの感謝状贈呈式が、9月26日(金) 総長応接室において行われ、松尾総長から下東勝博同センター代表取締役社長へ、感謝状及び記念品が贈呈されました。

今回の贈呈式は、同社が、大学院工学研究科の博士課程前期課程の学生を対象に、システム LSI 技術教育の進展及び充実を図り、次世代の日本の情報産業を担う人材の養成に資することを目的とする授業科目開設のための基金として、本学に対し多大な寄附をしていただいたことに感謝の意を表したもので、当日は、下東代表取締役社長他関係者2名が出席されました。

今回開設された授業科目は、大学院工学研究科の主専攻科目「システム LSI 特論」として開講され、島田俊夫工学研究科教授(電子情報学専攻)を責任教官に、各回の講義に専門家の協力を得て、オムニバス方式で

実施されます。また、授業内容としては、システム LSI の新しい設計法の教授、さらに具体的な事例をもとにした設計の実習が行われ、本研究科の学生の先進的な知識を高め、広範な先端産業で大幅に不足しているシステム LSI 技術者の育成という産業界、社会からの要請に応える学生教育を目指します。

急速な展開をみせる同分野では、その変化に対応する教育を直ちに行うことは、人材確保の点で困難であり、寄附講義を開設することにより、社会の第一戦で活躍している方が講義を担当することが容易になります。また、本学の技術教育の進展及び充実を図るという面で本学としても有意義であり、中部地区の主要産業である機械産業にも好影響を与え、地域貢献にも資することが期待されています。



松尾総長から下東勝博氏への感謝状の贈呈



懇談の席で謝辞を述べる松尾総長



大学院生命農学研究科がシンポジウムを開催する - 植物に学び植物を活かすバイオサイエンス -

大学院生命農学研究科は、8月25日(月) 理化学研究所 横浜研究所植物科学研究センターと共催し、産学官連携植物科学シンポジウム「植物に学び植物を活かすバイオサイエンス 次世代の食と環境を担う植物科学研究の最前線」を同研究科講義室において開催しました。

このシンポジウムは、同研究科と同センターが本年4月に学术交流協定を締結(本誌 No.122号(平成15年7月31日発行)既報)して初めて開催されたもので、本学で採択された21世紀COEプログラム「新世紀の食を担う植物バイオサイエンス」と特別推進研究(COE)「植物の可塑的な成長・分化を支える分子機構」の研究者が中心となり企画されました。当日は、産学官から約200名の参加があり、夏休み期間中にもかかわらず多くの学生の姿も見られました。

シンポジウムでは、山本同研究科長と杉山達夫同センター長の学术交流協定締結及びシンポジウム開催の経緯等についてのあいさつに続き、文部科学省研究振興局の戸谷一夫ライフサイエンス課長による「文部科学省のライフサイエンス施策」と題する講演が30分余り行われました。さらに、両機関、企業から13名の研究者がそれぞれ30分間講演を行い、その後、活発な意見交換が行われました。

両研究機関が連携することで得られる教育、研究面での効果は計り知れないものがあり、また、我が国の植物バイオサイエンスの発展に資することが大であると期待されています。このシンポジウムを契機に大学院セミナーの開催、個別共同研究の推進等が計画されています。



シンポジウムの冊子



戸谷氏による講演の様子



博物館が第27回特別講演会と 第9回コンサートを開催する

博物館は、第2回企画展「フーフェラントと幕末の蘭方医 毛利孝一コレクションから」（10月1日～11月3日）の開催を記念して、10月1日（水）に、第9回博物館コンサート（NUMCo）と第27回特別講演会を開催しました。

コンサートでは、宇佐美敦博氏による無伴奏フルートリサイタルが行われました。バロック、ロマン派、印象派から現代音楽に至る約300年間の音楽様式の変化を1本のフルートでたどるという意欲的な演奏に70人の聴衆は魅了されました。

続いて、国立名古屋病院名誉院長の日比野 進名誉教授による特別講演会「毛利孝一博士を偲ぶ」が行われました。日本内科学会の最長老で95歳の同名誉教授

は、ヒポクラテスからフーフェラントに至る医学思想の直系であった親友の故毛利孝一氏の思い出を珠玉の言葉で綴られました。医学における「不易」とは何かと問いかけ、「人間は目的であって手段ではない」というカントの言葉に、「思いやり」を医術の原点とした毛利氏の信条を見い出しました。死や告知といった重大な問題に直面しても逃げ隠れせず、苦闘しつつ思索を深めた毛利氏を偲んで、同名誉教授は、毛利氏と患者との感動的なエピソードを交えながら医の原点を担う開業医としての誇り高い人生を讃えました。参加者は、その迫力と情理に満ちた話に圧倒され、感動の連続でした。



フルート演奏をする宇佐美氏



講演する日比野氏



環境学研究科学生が理事を務める NPO 法人が 防災功労者担当大臣表彰(団体の部)を受賞

大学院環境学研究科社会環境学専攻博士課程(前期課程)1年生の栗田暢之氏が常務理事兼事務局長として、災害救援ボランティア活動等に取り組んでいる特定非営利活動法人「レスキューストックヤード」が、平成15年度防災功労者担当大臣表彰(団体の部「災害時の防災活動」)を受賞し、9月4日(木)に内閣府講堂で開催された表彰式において、鴻池防災担当大臣から表彰状と記念品の楯を授与されました。

この表彰式は、内閣府が平成15年度防災週間の行事の一環として、防災功労者(団体、個人、ボランティア及び企業等)の表彰を行うこととし、災害時において、人命救助、被害の拡大防止等の防災活動に顕著な功績を挙げた方、自主的な活動の実施等を通じて防災思想の普及に顕著な功績を挙げた方、防災に関する調査・研究活動等において顕著な功績を挙げた方などを表彰するものです。

今回の表彰に至った功績としては、東海豪雨水害では、愛知県との「緊急時のボランティアコーディネーター派遣」に関する協定に基づき、「愛知・名古屋水害ボランティア本部」の設立・運営に多大な貢献をしたこと、平時の活動においては、災害ボランティア・コーディネーター養成講座の主催等を通じて災害救援ボランティア及びコーディネーターの発掘・養成に尽力していることが挙げられます。



鴻池防災担当大臣から表彰を受ける栗田暢之氏



附属農場が農業館を利用して 連続講演会(第4回)を開催する

大学院生命農学研究科附属農場は、農業館を利用した連続講演会の第4回として、9月20日(土) 松田 幹生命農学研究科教授による「食の安全・安心について バイオ先端技術を用いて開発・生産された農産物は？」と題する講演を開催しました。

当日は、定員の60名に近い参加があり、「生物の細胞機能を制御している情報伝達因子(遺伝子)の働き方」に関する基礎的研究から、バイオ先端技術を用いる農産物生産への応用研究を行っている松田教授による講演を熱心に聞いていました。

講演では、遺伝子操作の基礎から、これを応用して現在生産されている大豆、トウモロコシ、ワタ及びナタネ等の遺伝子組換え作物の現状、さらに、これらの作物には主に害虫抵抗性又は除草剤耐性が付与された遺伝子操作がなされていることが説明されました。次いで、遺伝子組換え食品の安全評価、その審査基準等の法的規制について言及されました。

講演後には、受講者から活発な質問や意見があり、特に今回の講演会には女性の参加者も多く、少なからず流通している遺伝子組換え食品の安全性に高い関心があることを伺わせました。最後に、食品の安心・安全に関しては、研究者、行政及び生産者のモラルが重要であると締めくくられ、講演会は終了しました。

なお、今後の講演会の予定は以下のとおりです。

第5回 10月18日(土) 午後2時から

講師:長谷川明子氏

(東海地区ピオーブを考える会会長)

演題:「ピオーブと都市住民」

第6回 11月22日(土) 午後2時から

講師:吉岡敏彦氏(春日丘高等学校教頭)

演題:「メダカからの発信 絶滅かといわれてから5年、私たちは今」



遺伝子実験施設が「Jr. サイエンス教室 遺伝子を見てみよう」を開催する

遺伝子実験施設は、7月19日(土)「Jr. サイエンス教室 遺伝子を見てみよう」を開催しました。この教室は、文部科学省が昨年度から公募している「大学等地域開放特別事業『大学 Jr. サイエンス&ものづくり』」の一つとして行われ、子供たちが DNA や細胞に触れる機会をつくり、その中から科学する心や、遺伝学・バイオサイエンスなどに対する関心を育ててもらおうという趣旨ではじめられたもので、昨年度に引き続き、今回で2回目になります。

当日は、名古屋市とその周辺から小・中学生18名、父兄10名の参加がありました。参加者は、遺伝子実験施設の職員から遺伝 DNA に関する簡単な講義を受けた後、顕微鏡で細胞の核や染色体を観察し、次いで、一人一人が、野菜から DNA を抽出するという困難な実験に挑みました。夏休み初日ということもあり、テレビ局なども取材に訪れ、歓声の上がる賑やかな実験風景となりましたが、全員が無事、DNA の抽出に成功しました。

実験終了後、小林同施設長から一人一人に修了証書と記念品が手渡され、参加者は、自分で抽出した DNA をお土産に、帰途に着きました。



DNA 抽出実験の様子



総長等表敬訪問一覧

海外等から総長等を表敬訪問された方々は、次のとおりです。(平成15年4月～9月)

月日	学校名	国	代表者	来学の目的
6.30	バジャジャラン大学	インドネシア	Himendra Wargahadibrata 学長他5名	文学部との国際交流の成果及び大学法人化に関する運営について懇談するため(大学院文学研究科)
7.23	木浦大学校	韓国	梁慶模人文科学大学教授他学生3名	木浦大学校日本語夏期特別研修のため(大学院文学研究科)



バジャジャラン大学学長からお土産を受け取る松尾総長



歓談する木浦大学校一行と奥野副総長



東海・北陸地区国立学校等教室系技術職員合同研修 (電気・電子コース)が開催される

平成15年度東海・北陸地区国立学校等教室系技術職員合同研修 電気・電子コースが、8月20日(水)から22日(金)までの3日間、本学で開催されました。

同研修は、東海・北陸地区の国立学校等教室系技術職員に対し、その職務に必要な専門的知識及び技術等を修得させ、地区全体の教室系技術職員の資質の向上を図るとともに、技術職員相互の交流に寄与することを目的として実施されたものです。また、今年度は、豊橋技術科学大学において、装置開発コースが開催されました。



講義をする大島氏

チップマイコン PIC のソフトウェア」など多彩な講師による講義が行われました。

また、2日目には、工学部・大学院工学研究科技術部世話人及び技官の熱心な指導により「1チップマイコン PIC のプログラム書込器の製作」、「1チップマイコン PIC のプログラミング」の実習が行われました。実習では、木琴を自動演奏するプログラミングの実演等があり、今後の職務に役立つと好評でした。

さらに、3日目の午後には、三菱重工業株式会社名古屋航空宇宙システム製作所飛鳥工場で H ロケットを含む航空宇宙産業の最先端の施設を見学し、研修者は、幅広い技術的見識の向上を図ることができました。



あいさつする金子人事課長

今回の電気・電子コースには、9機関から22名(男性21名、女性1名)が参加し、金子人事課長の開講のあいさつに続き、愛知労働局安全課の大島康雄主任安全専門官による「安全管理」、澤木宣彦工学研究科教授による「青色 LED から紫外光 LED へ」、パルスジェット技術研究所所長の緒川尚孝氏による「私の発明人生」、佐藤一雄工学研究科教授による「最近のマイクロアクチュエータ・センサ技術」、山内核融合科学研究所技術部長及び幅同研究所製作技術課長による「研究所における電子回路技術と応用」、工学部・大学院工学研究科技術部の高田、増田、佐々木(敏)、熊澤及び福森技官等による「プラズマ計測の基礎-実験手順を追って-」、「1チップマイコン PIC のハードウェア」、「1



金子人事課長と受講生全員による記念撮影



平成15年度職員体育大会が開催される

職員の健全な体育等の活動を通じて元気を回復し、職員相互の緊密度を高めることにより、勤務能率の発揮及び増進に資することを目的として毎年開催されている体育大会が、今年度も開催されました。

今年度は、8月25日（月）から27日（水）の3日間、17時からの勤務時間外に、8チーム参加による硬式テニス大会を、9月1日（月）には、同じく17時からの勤務時間外に、10チーム参加によるピンポン大会を

行いました。ピンポンは、ソフトボールに代わる今年度からの新種目として行われました。各競技とも、優勝を目指し、白熱した好ゲームが繰り広げられました。

9月24日（水）には、事務局第2会議室において表彰式が行われ、渡橋事務局長から、各種目の優勝及び準優勝チームにカップ、賞状及び賞品が、第3位及び第4位チームに賞状及び賞品が手渡され、各チームに対しお祝いの言葉がかけられました。

種 目	順 位	チ ャ ム 名
硬式テニス	優 勝	プラズマ& NTC
	準優勝	本部 A
	第3位	理学部
	第4位	ウォンバツ
ピンポン	優 勝	kinko-z
	準優勝	フレンド
	第3位	SCIT2
	第4位	理・理・多



表彰状を授与する渡橋事務局長



硬式テニスの試合の様子

新任部局長等の紹介



高等研究院長
佐藤 彰一
(さとう しょういち)
昭和20年7月28日生
平成15年10月1日発令
(略歴)
昭和53年4月
日本学術振興会奨励研究員
昭和54年4月
愛知大学助教授(法経学部)
昭和59年9月
パリ第10大学訪問研究員
(~ S61.8.31)
昭和62年4月
名古屋大学助教授(文学部)
平成3年6月
名古屋大学教授(文学部)
平成7年3月
フランス政府研究庁(CNRS)研究員
(~ H7.10.31)
平成12年4月
名古屋大学教授(大学院文学研究科)
平成15年10月
名古屋大学高等研究院長
(~ H18.9.30)



物質科学国際研究センター長
巽 和行
(たつみ かずゆき)
昭和24年1月26日生
平成15年10月1日発令
(略歴)
昭和52年2月
米国テキサスA&M大学博士研究員
(~ S54.5.31)
昭和54年6月
米国コーネル大学博士研究員
(~ S57.3.31)
昭和57年4月
大阪大学助手(理学部)
平成3年4月
大阪大学助教授(基礎工学部)
平成6年4月
名古屋大学教授(理学部)
平成8年4月
名古屋大学教授(大学院理学研究科)
平成9年4月
名古屋大学化学測定機器センター長
(~ H13.3.31)
平成10年4月
名古屋大学教授(物質科学国際研究センター)
平成15年10月
名古屋大学物質科学国際研究センター長
(~ H17.9.30)



総務部長
千葉 秀夫
(ちば ひでお)
昭和25年4月21日生
平成15年10月1日発令
(略歴)
昭和44年3月
函館工業高等専門学校採用
昭和45年6月
文部省大臣官房統計課
平成元年4月
高知医科大学総務部会計課長
平成3年4月
大阪大学医学部附属病院管理課長
平成4年4月
文化庁美術工芸課課長補佐
平成7年4月
文化庁伝統文化課課長補佐
平成11年4月
奈良国立文化財研究所庶務部長
平成13年4月
(独)文化財研究所総務部長
平成13年10月
国立情報学研究所管理部長
平成15年10月
名古屋大学総務部長

INFORMATION

名古屋大学学内展覧会
strange × familiar (ストレンジ×ファミリア)

主催：名古屋大学大学院情報科学研究科 茂登山研究室

会期：2003年12月8日(月)～12月19日(金)

休館日13日(土)、14日(日)

会場：名古屋大学内留学生センターロビー、ラウンジ及び光庭(午前8:00～午後7:00)

グリーン・サロン東山ホール(午前11:00～午後2:00)

入場料：無料

作家総数：6名

学外作家：三浦篤正、松永久彦、新堀孝明

学内作家：藤下麻香(大学院情報科学研究科博士課程前期1年)、山下香織(大学院情報科学研究科博士課程前期1年)、John DIDIER(大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻 留学生)

企画：小塚真里絵(実行委員会代表・大学院情報科学研究科博士課程前期1年)

運営：名古屋大学学内展覧会実行委員会

問い合わせ先：080 - 3287 - 6699 (小塚)

infosxf@vision.mdg.human.nagoya-u.ac.jp



松永久彦・無題



三浦篤正・森象 no 29



新堀孝明・故郷のうた

INFORMATION

本学関係の新聞記事掲載一覧（15年9月分）

	記事	月日	新聞等名
1	法科大学院 8月31日適性試験2万8000人受験 東海三県では本学など4会場で計1541人が受験	9.1(月)	日経(朝刊) 他5社
2	時のおもり：監視社会のゆくえ 個人情報丸裸になる 池内了・理学研究科教授	9.1(月)	中日(朝刊)
3	環境工学の新方向：原口紘丞・工学研究科教授 「拡張元素普存説」提唱 全元素分析で水俣病の発症を阻止	9.2(火)	日刊工業
4	名大サロンの主役：藤木秀朗・文学研究科講師 「二重のスター - 初期映画スターの視覚文化研究」と題し講演	9.2(火)	中日(朝刊)
5	学生之新聞：インターンシップ制度 「インターン」を本学学生5人が取材	9.2(火)	中日(朝刊)
6	名古屋大 COE 第6回オープン・レクチャー 釘貫亨・文学研究科教授が「やまと言葉を記載する - 万葉歌人の苦心の跡」のテーマで講演	9.2(火)	中日(朝刊)
7	時日記：学生ベンチャー編 書類作成...設立へ前進 大学院1年・大沢憲明	9.2(火)	中日(朝刊)
8	21世紀COE 初年度補助金158億円、東大と京大で22% 本学は6件採択	9.4(木)	日刊工業
9	新日鉄の事故について桑原守・工学研究科教授に聞いた タンク内ピストンの老朽化が原因の可能性	9.4(木) 9.5(金)	中日(朝刊)
10	紙上診察室：下肢静脈瘤、年とともに進行 古森公浩・医学部附属病院血管外科教授	9.5(金)	中日(朝刊)
11	コーナーキック：キャリアを「聞く」ことと「語る」こと 金井篤子・教育発達科学研究科助教授	9.5(金)	中日(夕刊)
12	法人化を契機に地域の中の国立大、探る 「大学の地域社会への貢献、どうするの？」をテーマに本学で教養科目の授業が行われた	9.5(金)	中日(夕刊)
13	「食の安全・安心を考えるフォーラム」 パネル討論で竹谷裕之・生命農学研究科教授ら4人が意見を交わした	9.6(土) 9.14(日)	中日(朝刊)

	記事	月日	新聞等名
14	本学が「国際就業体験」構想 提携する海外23大学から留学生を受け入れ東海地方の企業で研修させる	9.7(日)	朝日(朝刊)
15	「ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム『21世紀の創造』」11月に全国4カ所で開催 参加受賞者は化学賞受賞者の野依良治教授ら10人	9.8(月)	読売
16	明日の人に：加藤克佳・愛知大学法学部長 法曹教育高まる重要性 名古屋大学の定員は80人、東海地区が担うべき法曹教育を考えれば圧倒的に不十分	9.8(月)	読売
17	パーミヤン遺跡を後世に④：主要窟担当日本隊、散乱壁画片を収集 第一次名古屋大アフガニスタン学術調査団に参加した名大卒の前田耕作・和光大名誉教授	9.8(月)	中日(夕刊)
18	さーくるナビ：子どもたちとの交流楽しむ 児童文化研究会・ほーきぼし 本学を中心に近隣の学生らが「鏡池子供会」を独自で運営	9.9(火)	中日(朝刊)
19	時日記：学生ベンチャー編 物に見る人のつながり 大学院1年・大沢憲明	9.9(火)	中日(朝刊)
20	きらり：日本の印象は「人が優しい」 工学研究科量子工学・ウォルフガング・フォグリ	9.9(火)	中日(朝刊)
21	改革の道のり：徹底した少人数教育 元本学総合言語センター教授・水谷修・名古屋外国語大学長	9.9(火)	中日(朝刊)
22	コレギウム・ムジクム・チェンバロコンサート 本学シンポジオンで開催	9.9(火)	中日(朝刊)
23	講演会 遺伝子治療と再生医療 吉田純・医学系研究科教授、慶応大教授が講演	9.9(火)	中日(夕刊)
24	パーミヤン遺跡を後世に⑤：月神救出すも「10年はかかる」 本学卒・前田耕作・和光大名誉教授	9.9(火)	中日(夕刊)
25	大学サバイバル問われる経営力④：求む稼げる教授 本学は定年を迎えた教官を対象に雇用を継続する新しい人事制度を導入する予定 自ら外部資金を集める“看板教授”は手放せない	9.10(水)	日経(朝刊)

	記事	月日	新聞等名
26	レクリエーション・セミナー 「高齢者福祉施設における運動の必要性を考える」のテーマで島岡清・総合保健体育科学センター教授による講義と実技	9.10(水)	中日(朝刊)
27	大学サバイバル問われる経営力④: 「特色守れ」反発も強く、進めぬ 統合協議 松尾稔総長「協議の申し入れは受けるが、うちからは呼び掛けない」	9.11(木)	日経(朝刊)
28	蓮の葉構造で透明・硬質、水をはじく合成皮膜を科学技術交流財団が開発 研究には本学などが参加	9.11(木)	日経(朝刊)
29	大学サバイバル問われる経営力⑤: 私学、新たな連携 相互補完で 国立に対抗 本学や名古屋工業大学の 中部 TLO などの国立大主導の動き に対抗していく	9.12(金)	日経(朝刊)
30	高田広章・情報科学研究科教授が 設立する NPO 法人「TOPPERS プロジェクト」 トヨタ自動車や 大学など計65会員で始動	9.12(金)	日経(朝刊)
31	国立大病院での医療事故前年度の 4倍 患者への影響が軽微なケ ースも含まれるが、死亡事故のケ ースも本学の事故などを合わせ6例 に上った	9.13(土)	中日(朝刊)
32	爆発ごみ発電 行き詰まる究明作 業 藤間幸久・元本学教授は「年 内には原因究明したい」と話した	9.14(日)	中日(朝刊)
33	浪川幸彦・多元数理科学研究科長 の数楽、数が苦：三角形の内角の 和 180度にならない場合も	9.15(月)	中日(朝刊)
34	独立行政法人化の研究機関 大物 トップ迎え改革 野依良治・理学 研究科教授・理化学研究所新理事 長「成果、世間にアピール」	9.16(火)	日経(夕刊)
35	今月末に本学からの退官が決まっ ている野依良治・理学研究科教授 に「特任教授」の称号を贈り、理 学部非常勤研究員として引き続き 研究を続けてもらうことを決めた	9.17(水)	中日(朝刊)
36	野依良治教授の退官に伴い 佐藤 彰一・文学研究科教授を高等研究 院長に、巽和行・物質科学国際研 究センター教授を物質科学国際研 究センター長に選出	9.17(水) 9.18(木)	毎日(朝刊) 日刊工業
37	名古屋大学男女共同参画社会推進 シンポジウム「男女共同参画社会 推進における産学官連携の意義と 可能性」 シンポジオンホールで 開催 フォーラムを創設することに 合意	9.17(水) 9.23(火) 9.30(火)	毎日(朝刊) 中日(朝刊)
38	近代上下水道の父・W・K・バル トン 東海・名古屋にも足跡 加 藤詔士・教育発達科学研究科教授	9.17(水)	中日(夕刊)

	記事	月日	新聞等名
39	文学研究科は神尾美津雄・文学研 究科長を再任	9.18(木)	中日(朝刊) 読売
40	歯の健康講演会 元医学系研究科 教授・堀田饒・中部防災病院長な どが講演	9.18(木)	読売
41	特色ある大学教育支援プログラム 初年度分80件選定 東海では5大 学1短大 本学では、工学部・工 学研究科の「創成型工学教育支援 プログラム」が採択された	9.19(金) 9.20(土) 9.22(月)	読売 他6社
42	朝鮮学校生の受験資格 本学は成 績証明書の提出などを要件に受験 を認める方針	9.19(金) 9.20(土)	朝日(夕刊) 他2社
43	明日の人に：昨年、本学男性職員 では初めて育児休暇を取った、田 村哲樹・法学研究科助教授 男女 共同参画社会の推進には産学官の 連携が不可欠	9.22(月)	読売
44	国立大、法人化へ「改革」 本学は 世界各地の著名な大学23校と連携 担当の林良嗣・総長補佐「世界の 大学の、いわば扇の要になり、本 学の存在感を示したい」	9.22(月)	朝日(夕刊)
45	培養骨細胞を移植、あごを大きく する手術に上田実・医学系研究科 らのグループが国内で初めて成功	9.22(月)	中日(夕刊)
46	日本数学会は建部賢弘賞に梁淞・ 多元数理科学研究科助手、藤野修 ・多元数理科学研究科助教授、坂 内健一・多元数理科学研究科助手 ら8人が選ばれた	9.23(火)	中日(朝刊)
47	時日記：学生ベンチャー編 経 営者として毎日が勉強 大学院1 年・大沢恵明	9.23(火)	中日(朝刊)
48	college mode：Songs from Ally McBeal、& 1人でじっ くり聞いてほしい一枚 3年・藤 井亜矢子	9.23(火)	中日(朝刊)
49	学生之新聞：長浜バイオ大 新産 業の拠点へ期待を背に船出 バイ オサイエンス学部長には郷通子・ 元本学教授	9.23(火)	中日(朝刊)
50	学校祭でシンクロナイズドスイミング 教育学部附属高校3年生男子	9.24(水)	朝日(朝刊)
51	本学などが導入した AMS(加速 器質量分析法)で波紋 揺れる考 古学の年代観 「暦年代」への統一 急げ	9.24(水)	中日(朝刊)
52	肥満女性ほど、結腸がんで死亡す る危険性が高くなるとの疫学調査 結果を玉腰浩司・医学系研究科講 師らがまとめた	9.24(水)	毎日(夕刊)
53	「持続可能な社会」に必要なこと は何か 武田邦彦・工学研究科教 授に伺う 「自然界に学ぶ新しい 社会の構築と根本的な意識改革が 必要」	9.25(木)	朝日(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
54	交遊抄：精緻と豪放 佐藤太英・電力中央研究所理事長 信頼性工学が経営判断に役立つことを教えてくれた松尾稔総長	9 25(木)	日経(朝刊)
55	地域貢献めざし、経済学で産学連携 国際経済動態研究センターと経済学部同窓会の「キタン会」が中心となり運営する	9 26(金)	日経(朝刊)
56	JFCCは21世紀 COE 形成プログラムとして本学が進める研究に参加すると発表	9 26(金)	日刊工業
57	ひととき：大島伸一・医学部附属病院長 大学病院の実情 不安はらむ法人化後	9 26(金)	中日(朝刊)
58	医学の現場から：名大病院在宅管理医療部など主催の腎不全対策キャンペーン講演会 長澤俊彦・杏林大学長は基礎知識を具体的に説明	9 26(金)	中日(朝刊)
59	国立大学法人評価委員会の委員 野依良治教授ら16人に決定	9 26(金)	日経(夕刊)
60	中部の美術館・博物館：名古屋大学博物館 フーフェラントと幕末の蘭方医 毛利孝一コレクションから	9 26(金)	日経(夕刊)
61	後房雄・法学研究科教授 新民主党、真の政権選択選挙を目指せ	9 27(土)	朝日(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
62	公開討論会「愛・地球博と労働組合」開催 労組の万博参加の意義を確認 森高昭夫名誉教授など4人が討論	9 27(土)	中日(朝刊)
63	安政の大獄描く「地獄物語」が本学附属図書館に保管されていることが塩村耕・文学研究科助教授の調査でわかった	9 27(土)	中日(夕刊)
64	時のおもり：池内了・理学研究科教授 南北逆さまの地図を見て描き方で世界の見方変わる	9 29(月)	中日(朝刊)
65	With スポーツ：「洋剣道部」個性出す フェンシング部発足 理学部3年・飯野孝浩	9 29(月)	朝日(夕刊)
66	まるごと教育：「内定解禁10月」形骸化 就職支援大学も強化 本学では3年ほど前から就職指導の態勢を強化している	9 30(火)	朝日(朝刊)
67	時日記：学生ベンチャー編 自分の夢へ一歩踏み出せ 大学院1年・大沢憲明	9 30(火)	中日(朝刊)
68	学生街ダンス：議員インターンシップ ピラ配りに厳しさ 3年・丹羽亜衣	9 30(火)	中日(朝刊)
69	With きゃんぱす：BLS(学生ビジネス研究会)中部 起業へ理系学生タッグ 代表は堂田文明・工学研究科学生	9 30(火)	朝日(夕刊)

本誌に関するご意見・ご要望・記事の掲載などは企画広報室にお寄せください。

総務部 企画広報室 企画広報掛

電話：052(789)2016

FAX：052(789)2019

E-mail：kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

1945（昭和20）年4月に創立された岡崎高師（岡崎高等師範学校）は、その4ヵ月後に岡崎市空襲で校舎を焼失、その後同年12月に岡崎市から豊川市への移転、1949年度には新制名古屋大学への包括を経て、1951年度末に閉校となり7年間の校史に幕を閉じました。

現在、大学史資料室には岡崎高師の徽章（帽章）が保管されています。同校同窓会（黎明会）の加藤貞夫氏の寄贈によるものです。一般に、徽章はステータス・シンボルとして、在校生・卒業生の所属感・連帯感などを生み出すものとされていますが、岡崎高師の徽章は「高師」という文字を桜の小枝で囲んだデザインとなっています。岡崎公園が桜の名所であることから、「岡崎」を表するものとして桜が使われたと考えられています。

帽章は、創立間もない頃は物資が極端に欠乏していた敗戦前後の時期であったため、黒布にデザインを印刷したものが使われていました（写真1）。その後、時期は不詳ですが、厚手の台布にデザインが刺繍された帽章が登場しました（写真2）。さらにその後、帽章はようやく真鍮製のものになりました（写真3）。しかし、長髪学生の増加に伴い学生帽の着用が減少したため、この帽章も次第に使われなくなったようです。

ちなみに本学では、名古屋大学学章取扱要項（1998年制定）により、通称「NU（エヌ・ユー）マーク」（図1）が公式学章とされ、公的印刷物などの各種用途に使用されています。



写真1

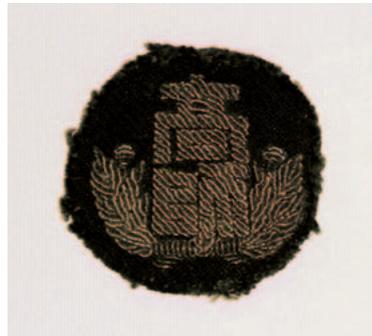


写真2



写真3



岡崎高等師範学校正門



図1

名古屋大学の歴史に関する記念碑・記念物等に関する情報をお持ちでしたら、
大学史資料室（052-789-2046、nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp）へご連絡下さい。